

第 55 回海外投融資委員会議事要旨

1. 日時

2017 年 10 月 26 日（木）14:00～16:00

2. 場所

国際協力機構本部 6 階役員会議室

3. 出席者

（海外投融資委員会委員）

小川委員長、赤木委員、荒木委員、小木曾委員、柴田委員、前田委員

4. 議事・報告

1. （審議事項）「省エネ・再生可能エネルギー事業 II（出資事業）」審査前審議
2. （審議事項）「ベトナム社会主義共和国コーヒーバリューチェーン強化事業（融資事業）」審査後審議
3. （審議事項）「ヨルダン・ハシェミット王国ムワッカル太陽光発電事業（融資事業）」審査後審議
4. （審議事項）「モンゴル国ツェツィー風力発電事業（融資事業）」開所式報告

5. 議事の要旨

1. （審議事項）「省エネ・再生可能エネルギー事業 II（出資事業）」審査前審議
事務局より説明を行い、下記の点について委員より意見が出された。
 - ・ 中南米・カリブ地域における省エネ・再生可能エネルギー事業については、中南米地域の開発政策、そして日本政府及び JICA の援助方針と合致しており、本事業の必要性を確認。
 - ・ 一号ファンド事業からの教訓をどう取り込むのか、また、付加価値をつけられるのか等の詳細な審査をお願いしたい。
 - ・ LPA では体制変更により制約をかけるキーマン条項等確認願いたい。
2. （審議事項）「ベトナム社会主義共和国コーヒーバリューチェーン強化事業（融資事業）」審査後審議
 - ・ 本事業は小農に対するコーヒー豆の買取スキームにより、高い開発効果が見込まれる案件と考えられる。オラム社に関する審査結果は良好で、オラム社の経営方針、営農プログラム実施の継続性など懸念はない。
 - ・ 民間商業銀行 30 行などが主な借入先で、多様化にも成功しており、投融資を行う上では、この点も重要。
3. （審議事項）「ヨルダン・ハシェミット王国ムワッカル太陽光発電事業（融資事業）」審査後審議
 - ・ 極めて高い意義、事業効果が認められる重要な案件と考える。一方で多くの

国際機関、政府機関が参加しているため、今後、技術支援との組み合わせなど JICA そして日本ならではの色を出していくことも期待したい。

- 案件当初の懸念点であった本事業のオフテイカーである NEPCO の契約履行能力関連の詳細な審査と包括的な結果報告が確認された。NEPCO の財務状況の改善とヨルダン政府の IMF EFF プログラムの成果の確認ができたことは重要。

4. (審議事項)「モンゴル国ツェツィー風力発電事業 (融資事業)」開所式報告

- 全部で 25 本の風力発電機を設置し、計 50MW の発電容量となる旨、確認。

以 上